ティーチング・アシスタント（TA）
マニュアル

鹿児島大学大学院水産学研究科

鹿児島大学大学院水産学研究科（修士課程）の教育目標

本研究科は、鹿児島から東南アジア・南太平洋を含む水圏をフィールドとして、水産資源の持続的生産とその合理的利用、水圏環境の保全分野で、高度な教育を受け、熱帯・亜熱帯水域を対象とする諸活動で世界をリードする文化を創出し、地域社会と国際社会に貢献できる高度な技術者を養成し、社会に送り出すことを目指します。

はじめに

大学院水産学研究科では学部の授業（特に演習、実験、実習）の補助を行って実務経験を積む「ティーチング・アシスタント（TA)」という制度があります。

TA は大学の公的な仕事で、履歴書の職歴にも記載でき、将来大学等の教育職に採用される際には TA 活動も教育歴として評価される場合があります。

TA 制度は、水産学部教育と大学院修士課程教育の両者が有機的に深く関係するユニークなシステムです。従って、TA の実施によって。学部生と修士課程学生の両者にとって教育活動が継続的に改善されていくことが大切なこととなります。指導教員とともに水産学部と水産学研究科修士課程の教育の充実に貢献してください。

大学院学生が所属する研究室は大学と社会の接点です。高度な教育を受けながら研究活動を展開することが大学院学生の本分ですが、家族や大学の庇護を受けるという意識から脱却して、社会人としての責任と自身を培う場として大学院修士課程を捉えてください。

TA 制度の目的

TA 制度の目的は次のとおりです。

「鹿児島大学大学院の優秀な学生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対する手当て支給により、大学院学生の処遇の改善に資するとともに大学教育の充実および指導者としてのトレーニングの機会提供を図る。」

TA の業務にあたる大学院生は、別添＊＊の「鹿児島大学ティーチング・アシスタント取り扱い規定」に従い、TA 制度の目的を正しく理解し、指導教員の指導の下に生産的な活動を行うとともに、自己研鑽のために役立ててください。

TA 業務の具体的内容

TA の教育補助業務は次のとおりです。

○ 演習のディスカッションリーダー

○ 実験の指導または監督

○ 演習、実験・実習の準備、資料作成等

TA の心得

○ 自分の業務内容を事前に担任に確認すること

○ 勤務時間が自分の履修する授業時間と重複しないこと

○ 仕事が過重負担とならないよう事前に調整すること

○ 学生との対人関係に注意すること

・軽はずみな言動をしない

・清潔で誠実さを示す服装・身だしなみ

・言葉遣いに注意（差別的な表現は厳禁）

・プライバシーの尊重

・セクシュアルハラスメントに注意

・学生の問題を TA 個人で解決しようとしない

○ 授業内容に関して担任と綿密に打ち合わせること

○ 与えられた作業について詳しいシナリオを作成すること

○ 事前に機器の操作方法を熟知しておくこと

○ ハンドアウト作成に際しては出展情報を明記し著作権法に抵触しないよう注意すること

○ 授業時間を厳守すること

○ より多くの学生からの質問や意見を取り入れること

○ 実験・実習等では事故が起こらないよう機器の取り扱い方、危険物への対応・処理方法を周知させること

TA を経験した先輩の声

○ 情報活用基礎の TA を終えて、とてもいい経験だと思いました。ただ、事前にわからない箇所の確認、授業の流れも把握するために授業で使う資料をもらったりする簡単な打ち合わせがあればいいと感じました。

○ ＴＡでは特に卒論指導に力を入れています。論文の構成やパワーポイントの制作等を教えていますが、教える立場になり初めて気付く部分も多々あります。また自分の修士論文を客観的に見ることもでき、学ぶことが多い仕事だと感じています。

○ TAを通し実験の手伝いをしたことで良かった点は、知識の復習と教えることの難しさを再確認できたことです。忘れていたあやふやだった部分を他人に教えねばならなく、教える側の大変さ責任感などを改めて実感しました。

○ 学生の質問に対して的確な指示をしなければならないという意識が高まり、 教えるという立場の難しさや楽しさを知る上で貴重な体験ができました。TAは先生と学生の間の立場なので、学生にはもう少し気軽に接してほしかったです。

○ 学生実験を担当しました。「なぜこの実験が有用なのか？」を伝え、教えるという技術が身につきました。たとえば、板書、話し方、実験の原理、意義等を、産業への応用例を具体的に述べて伝えることです。

○ 学生の質問に、調べて答える機会があり、非常に有意義でした。逆に、自分の能力不足で、要点を得ることができず、学生に申し訳ないと思うこともありました。

○ 授業アンケートにTAの評価項目を載せたほうが良いと思います。今後のTAの能力向上、採用の参考になるからです。補助、指導の他に、TAにしかできない生の情報（研究室、就職活動）を提供できたら良いと思う。また、学生同士が気軽に話し合える場を作りたい。

○ TAの指導の如何によって学生のレポート･評価に差が出るなら、事前に打ち合わせ･講習をして指導内容、補助項目を明らかにする必要があると感じました。

平成１９年度ティーチング・アシスタント活動報告書

平成　年　月　日

水産学研究科修士課程　____年　氏　　名　_____

指導教員　_____

1. 活動内容（担当授業科目名・指導内容など）

2. TA 活動と体験して身についたこと

3. TA システムに対する問題点、質問、要望など

（TA に採用された院生は、活動終了後作成してください。提出先は総務係、締め切りは前期分は 9 月末日、後期分は 2 月末日です。）